

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

Ⅱ 令和2年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 「学校教育との連携」、「生涯学習の推進」、「地域・各種団体との連携」、「効率的かつ安心・安全な管理運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学を育てるまちづくり」の推進に寄与した。 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。 ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ 電気、水道、地域熱等の使用については、空調設備及び電気設備業者等と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。 ▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。 ▼ 「環境科学展(パネル展)」の開催や環境に関する常設展示物の展示等により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。 ▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。 条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。 例年に比べ、感染症対策のため空調の活用やこまめな換気による冷暖房の使用はあったが、その中でも可能な限り効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。 「環境科学展」の開催や、展示室内の太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民へ省エネ・環境配慮に関する取組みを周知することができた。	A B C D これまでの経験、ノウハウを活かした学習機会の提供を実施していることを評価する。引き続き、幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施を期待する。 条例・規則等に基づいた平等利用の取組を実施していることを評価する。引き続き、適切な取扱いを期待する。 適切な新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施したうえで、効率的なエネルギー運用ができる環境整備を実施したことを評価する。 コロナ禍において、「環境科学展」の実施方法を工夫し、市民の関心を集めるような事業を実施したことを評価する。引き続き、市民への環境配慮への周知をお願いしたい。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。 ▼ 館長1名、課長2名、係長4名を配置した。 ▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・契約職員・パート職員等の採用を行った。 ▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。 ▼ 人材育成のため、動画を用いたeラーニングでの研修を実施するとともに、オンラインでの外部研修等に参加した。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛生委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。	適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。 コロナ禍で研修機会が例年よりも少なくなはしたが、オンライン機器等を活用し、研修等に積極的に参加することで、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。 各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。	管理運営組織が確立されていることを評価する。市民サービス向上のため、柔軟に課題解決に取り組める組織体制づくりを進めること。 オンラインの外部研修の活用等、コロナ禍においても職員の専門性、技術の向上に努めたことを評価する。専門性が求められる分野であることから、継続した人材育成を期待する。 就業規則や36協定等については、研修や会議等の機会を利用し、職員への周知に努めていただきたい。
▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 ▼ 新型コロナウイルスによる臨時休館中や出勤抑制が続く期間内においても、グループウェアを積極的に活用した業務体制づくりを進めるなどして、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。 ▼ 日常から事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。	これまでの運営経験で培われたノウハウを活かすとともに、IT技術を活用することで管理水準の維持向上につなげた。	コロナ禍における出勤抑制中においても、職員間での情報共有に努めたことを評価する。事故防止に努めることはもちろん、事故発生時には、館内はもちろんのこと、市教委に対しても速やかな情報共有及び適切な対応をお願いしたい。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行のため再委託した。

施設の維持管理および展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。

経費縮減及び業務効率化が図られており、評価する。引き続き、指定管理者としての更なる工夫に期待する。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
6月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
第1回 10月22日	・委員長の選出について ・令和元年度の来館者数と事業の報告について ・令和2年度の来館者数と事業の報告について ・コロナ対策と今後の事業について ・その他、質疑・意見交換
第2回 3月10日	≪オンライン開催≫ ・令和2年度の来館者数と事業の報告について ・科学館の運営上の課題について ・その他、質疑・意見交換
<協議会メンバー> 北海道情報大学経営情報学部システム情報学科教授、札幌市立北園小学校校長、札幌市立幌東中学校校長、一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長	

学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、第1回は中止となってしまったが、2回目以降はオンライン開催とし、コロナ禍においても、有意義な意見交換の場を設けたことを評価する。運営協議会の意見を踏まえ、今後も科学館の各種事業について工夫していただきたい。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応している。 ▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。 ▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組みを行っている。 ▼ 現金等の取扱いについては「小口現金取扱要領」に則り、適正に行っている。	資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。 規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。	適正な資金管理が行われていることを評価する。今後も事故を未然に防ぐため、職員の意識啓発に努めていただきたい。
▽ 要望・苦情対応 ▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。 ▼ 全ての職員が常に的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。	要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。	苦情等については、適切な処理が行われているが、利用者からの声を真摯に受け止め、さらなるサービスの向上に繋げることを期待する。また、利用者に対し、要望・苦情に対応する部署の周知を図ること。
▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼ 職員の接遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、接触機会を低減するために、webアンケートの方式を採用した。寄せられた利用者の声は事業運営等に活かしている。	アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が9割以上であり、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。	利用者の高い満足度がうかがえる。今後も高い評価が得られるよう、引き続き職員の接遇、サービスの向上に期待する。

(2)労働関係 法令遵守、雇 用環境維持 向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上 ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めている。	関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。 社労士に委託し、相談窓口の設置や労働環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋がった。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。				就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。			
A	B	C	D												
職員の働きやすい環境となるよう適宜、財団の諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するように努めること。															
就業規則、36協定等を遵守するとともに、雇用環境の向上に繋がる取組についても積極的に進めていきたい。															
(3)施設・設備等の維持 管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼ 災害時の対応について、財団で定めた消防計画、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成等に即して、適切に役割分担を行い、利用者の安全確保に努めている。加えて館内での事故等に備え、仕様書で定められた各種保険に加入している。また、緊急連絡網を作成し、有事に備えた連絡体制を整備している。	各種災害に関する避難マニュアル等を作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策をお願いしたい。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策をお願いしたい。							
A	B	C	D												
適宜、災害マニュアルの見直しを行う等、引き続き、利用者の安全確保の強化に向けた取組を期待する。また、新型コロナウイルス感染対策についても、ガイドラインに沿った対策をお願いしたい。															

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)保守については、第三者委託により実施している。 ▼ 躯体の老朽化に伴う修繕については、札幌市教育委員会と調整を図り、対応した。 ▼ 機器設備等の故障箇所等については、可能なものは速やかに修繕を行った。大規模な設備の修繕に関しては、札幌市教育委員会と調整を図った。 ▼ 老朽化や故障による休止中の展示物が増えてきているため、札幌市教育委員会と調整を図りながら修繕を進めた。部品が入手できず修繕不能な展示物については、職員が自作した展示物などを代替して展示するなどした。 ▽ 防災 ▼ 消防計画に則り、年度内2回の防災訓練(火災を想定した避難誘導・通報訓練および地震を想定した防災訓練)を実施し、避難誘導体制の確認に努めた。	施設・展示物の維持管理について、財団で修繕可能なものは速やかに修繕を行った。躯体や規模の大きな設備の老朽化対応等は、今後教育委員会と連携して進めていきたい。 火災や地震発生時の対応等、様々な災害を想定した訓練を実施することにより、災害発生時の対応力の向上を図ることができた。	適切に取り組まれていることを評価する。 職員が自作した展示物を代替で展示する等、自らの工夫による取組を評価する。 施設の老朽化への対応については、利用者だけでなく、近隣住民にも大きな影響を与える事故に発展する可能性があることから、教育委員会への密な連絡・報告を徹底すること。 適切に取り組まれており評価する。 なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。
--	---	---

(4)事業の計画・実施業務	▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示		A B C D
	▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。 コロナ禍においては、日本博物館協会が発出した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」等に基づいて各展示物のリスク診断を行い、リスクが高い展示物は休止するなど、常に安全性を意識しながら展示物の運用を行った。 ▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。 ・夏休み「えっ！ どうして？ 不思議な錯覚の世界」 9日間開催（来館者7,097名） コロナ禍における科学技術をテーマに、非接触型の展示として、さまざまな科学や科学技術について体験しながら学ぶことができる特別展を実施した。 ・冬休み「～あそんで発見～感知、探知、検知！ センサー展」 15日間開催（来館者5,217名） （協力：北海道科学大学、㈱NSD） コロナ禍における科学技術をテーマに、非接触型の体温計やサーモグラフィカメラなどに活用されているセンサーについて、楽しく体験しながら学ぶことができる特別展を実施した。 ・春休み「新型コロナウイルスを知ろう！」 70日間開催 21,862名 感染症予防の普及啓発を図るために、子ども向けの新型コロナウイルスに関するパネル展を実施した。 ▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会をオンラインにて実施した。 ・山崎直子宇宙飛行士特別講演会「with コロナと宇宙生活」山崎直子（参加者56名） 新型コロナウイルス感染症が流行している現在の状況と閉鎖・密閉された宇宙ステーション内での生活を比較することで、コロナ禍を乗り切るためのヒントを宇宙飛行士たちの経験から学ぶ内容の講演会を実施した。	展示物を通して広く市民に科学や科学技術の知識を提供することで、科学への興味・関心を喚起できた。 常設展示では網羅できない特定のテーマや分野に関して、科学の面白さや楽しさ、私たちの身近な暮らしとの係わりについて伝えることができた。 非接触型の展示物を中心に構成したため、コロナ禍ではあったものの、感染予防と体験展示の両立を図ることができた。 新型コロナウイルス感染症について、広く市民に知識や情報を伝えることができた。 先端科学技術と新型コロナウイルス感染症を結び付け、掘り下げていくことで、科学の面白さや楽しさ、私たちの身近な暮らしとの係わりについて伝えることができた。 また、オンラインではあったものの当館名誉館長である山崎元宇宙飛行士の講演会を実施することで、当館のPRおよび新たな利用者の開拓につなげることができた。	新型コロナウイルス感染症対策を適切に行っていることを評価する。 今後もガイドラインに沿った感染対策を行ったうえで、科学館の魅力をアップさせるような展示物の運用を期待する。 新型コロナウイルス感染予防と体験展示を両立させた特別展の企画・運営を行ったことについて評価する。 今後も市民の科学や科学技術への興味・関心を喚起できるような企画を期待する。 オンラインによる新たな取組を行ったことについて高く評価する。 コロナ禍においても市民の科学や科学技術への関心を喚起できるようなオンラインコンテンツの充実を期待する。

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室

科学原理の理解を深める機会を提供するため、小・中学生を対象に、簡単な工作教室を実施した。

小中学生向け 48回 参加者149名

夏休み 0回 参加者0名

冬休み 21回 参加者94名

春休み 6回 参加者28名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

● 各種実演

・サイエンスショー

来館者とのコミュニケーションを図りながら科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験などの実演ショーを行った。

420回 参加者9,093名

「まわって おちて とびだして」 ほか

・テレビスタジオ

クロマキーなどテレビ番組で使われている特殊効果を紹介するとともに実際に撮影体験してもらう参加型の実演を行った。

2回/日

定員を減らし、接触を減らすよう工夫をしながら、共通規格化した材料を基本として題材開発をすすめることで、材料準備等の効率性を高めるとともに、安全性にも配慮した工作会を実施することができた
また、工作難易度を下げた工作を開発することで、未就学児でも作成しやすいよう工夫した。

サイエンスショーなどの実演をとおして、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。

コロナ禍においては、定員を減らしたり接触機会を極力排除するよう、プログラム内容を一部改変するなどの工夫をこらした。

新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、子どもから大人まで科学を楽しめる工作教室や実験室を実施していることを評価する。
今後も、適時適切な感染対策を行ったうえで、楽しめる企画の実施を期待する。

実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながる展示である。機器が老朽化する中で実施が困難なものもあるが、今後も新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで、市民が楽しめる工夫を期待する。

・日曜実験室 小中学生を対象に、身近な題材や科学現象をテーマにした実験教室を実施した。 26回 参加者90名 「色がいろいろ」 ほか ・実験・実習への協力 市内の小中学校等を対象に、学習指導要領を踏まえた内容で子どもの興味・関心を高める実演や実験・実習を行った。 理科授業プログラム 7校 参加者729名 ※例年実施していた、学習サイエンスショー、環境学習プログラム は新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館等により中止	身近な題材を取り上げた実験を行い、理科の面白さを伝えることができた。 コロナ禍においては、定員を減らしたり、参加者どうしあるいは参加者と講師の接触機会が無くても行うことが可能な実験を取り入れるなどの工夫をこらした。 プラネタリウムや各種展示物など、当館が持つ学習資源を生かして、小中学校の理科授業への協力を行うことができた。 コロナ禍においては、プラネタリウムや展示実演の定員を減らすなどの工夫を行うことで、可能な限り感染リスクを抑えた。	理科授業プログラムの実施を通して、学校教育と連携した取組の強化に積極的に取り組んでおり、大変評価する。 今後も、学校教育と連携した事業の実施及び協力に期待する。
▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ▼ 生解説を含む投影で、年齢や理解程度に応じて柔軟に対応し、市民にわかりやすい星座・天文の解説を行った。一般投影では、新たに月替わりの「プラネタリウムスタンプ」及び特典を用意し、リピーターの増加を図った。 一般投影 893回 観覧者40,457名 特別投影 12回 観覧者700名 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため定員を通常時の50%以下に縮減して実施した。	プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介し、来館者の天文に対する興味関心を喚起することができた。 新たに始めたスタンプの利用も多く、リピーターを獲得できた。	利用率向上のため、新たにリピーター確保の方策を実施したことを大変評価する。 今後も新たな利用者獲得、リピーター増に向けた番組の充実など工夫を期待する。 また、感染対策として各種ガイドライン等を遵守しながら、できるだけ多くの市民に機会を提供するための検討を引き続き行うこと。

▼ 学習投影

小・中学校を対象に、理科授業の一環として、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、天体の動きなどを学習するプラネタリウム投影を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で来館できない学校には学習投影内容を収録したオリジナルDVD教材を貸し出した。

139回 観覧者9,601名

DVD貸出 70校

▼ オート番組制作・購入

プラネタリウム投影時に上映するオリジナルのオート番組(ドーム全体に投影されるアニメーション動画)を科学館の特色、独自性を生かして制作した。また、旬の話題を取り入れるために、市販の番組も購入した。

・制作

一般向けオリジナルオート番組「科学戦隊サイエンジャーとながれぼしのひみつ」

・購入

「HAYABUSA2～REBORN 帰還バージョン」、「ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦」

▼ 字幕付きプラネタリウム

耳の不自由な人もプラネタリウムを楽しめるように、字幕付きの投影を行った。

4回 観覧者211名

▼ プラネタリウム祭り

プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともに、その魅力を広く市民に伝えるため、親子向けのキッズプラネ、大人向けのヒーリング、話題のはやぶさ2など、幅広いジャンルと組合わせた内容のイベントを実施した。

4日間 観覧者1,312名

学校では表現しにくい天体の動き等について、ドーム空間で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。

また、新型コロナウイルスの影響で来館できなかった学校に対しても学習教材の貸し出しを通して学習支援を行うことができた。

小惑星探査機「はやぶさ2」の帰還時の様子を紹介する番組の購入により、旬の話題を提供することができた。

字幕を付けることで耳の不自由な利用者にも健常者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。

幅広いジャンルと組合わせた内容のイベントを実施することで、プラネタリウムや星々の魅力を広く市民に伝えることができた。

各学校のスカイライン(360度映像)を投影しながら、子どもたちにとってわかりやすく、効果的な学習となっていることを評価する。また、新型コロナウイルスの影響で来館できない学校のため、新たにDVD教材の貸出の取組を行ったことを評価する。子どもたちの天体への関心が高まる工夫を今後も期待する。

幅広い市民に楽しんでもらえるような工夫を凝らした運営を行っていることを評価する。今後も、市民の利用増が見込めるような投影を期待する。

▼ 屋間の星を見ようinサッポロさとらんど（さっぽろ星まつり）

市民の天文への興味・関心を高めるために、サッポロさとらんどを会場に天体観望会や星に関するゲームを行った。例年「さっぽろ星まつり」として実施していたが、さとらんど側の意向にそってイベント名を変更し、コロナ対策を徹底したうえ、日中に限定して実施した。

2日間 約1,600名

▼ 移動天文台

市内各地に移動天文車と天文指導員を派遣することで、市民に天体観望の機会を提供し、天文に興味をもつ市民層を広げることを目的に実施した。

申込12団体(天体観望会実施3団体、中止9団体)
参加者140名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

▼ 科学館天体観望会

科学館正面玄関前において口径10cmの望遠鏡を使った観望会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため事業を中止した。代わりに札幌市青少年科学館の望遠鏡から観測した天体の映像を、インターネットの配信サービスYouTubeを用いて配信した。

3回 視聴回数5,690回

▼ 札幌市天文台

天文に関する興味・関心を高めるため、札幌の中心部に程近い中島公園内にある天文台を公開し、日中は太陽を中心に、夜は季節の星座を中心に観望会を実施した。

午前257回 観覧者2076名

午後219回 観覧者1876名

夜間31回 観覧者527名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

サッポロさとらんどと連携し、広く市民に天文知識を普及することができた

広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。

オンラインにて貴重な天文現象を広く紹介することができた。配信ページへのコメントも好評だった。

太陽や季節の星座の星を中心に広く市民に天体観測の機会を提供できた。

アウトリーチ活動は、新たな利用者の獲得につながる。とともに、科学館に来館できない子どもたちにとっての貴重な学習機会の提供となることから、更なる事業の拡大を期待する。

コロナ禍において、オンラインの企画・実施をおこなったことを高く評価する。今後もオンラインを活用した事業展開を期待する。

新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底したうえで、日中・夜間を通して市民への天体観測の機会を提供していることを評価する。

▼ 宇宙セミナー

「はやぶさ2」が小惑星からのサンプルリターンに成功したことを機に、試料分析に携わる専門家による講演会を実施し、YouTubeを用いてライブ配信を行った。

講師：北海道大学大学院理学院自然史科学専攻教授 本尚義氏

1回71名

YouTube視聴回数336回（2021年6月末時点）

▼ 大人のための天文教室

大人が天文について学べる機会を提供するため、初心者向けや中級者向けなど参加者の理解度に合わせて難易度を設定し、天文講座を実施した。今年注目の天文現象や、宇宙に関するニュースを紹介したほか、天体観測機器を活用し実際の星を見る観望会を行った。

やさしく学ぶ星空教室 1回26名

詳しく学ぶ天文講座 1回35名

▼ 親子天文教室

楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組合わせた天文教室を実施した。

3回 受講者34組72名

▼ 天文指導員の養成

天文に興味を持っている学生や一般市民に定期的に研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

登録者39名

※臨時休館期間もオンラインでの研修会を継続した

「はやぶさ2」といった流行の話題・旬の話題を扱った講座を実施することができ、宇宙天文に関する市民の関心を高めることができた。

天文現象の解説や天体観測機器を活用した天文教室を行うことで、市民への天文知識の普及啓発を図ることができた。

親子で天文現象等について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと天文分野の魅力を伝えることができた。

月1回程度の定例研修を通じて、天体観測の基礎的な知識を身に付けるとともに、移動天文台等を通じて星について伝える技術について研修機会を提供できた。

旬の話題について、オンラインも活用し、幅広い市民に提供できたことを大変評価する。引き続き、先端的な内容の研究・開発を市民に普及できるような講演に期待する。

生涯学習関連施設として、大人も学習できる場として寄与していることを評価する。引き続き幅広い世代への学習機会の提供となる取組に期待する。

専門的な人材確保のため、継続的な取組を期待する。また、研修機会を通して、職員・ボランティア間の連携を強化し、より市民にとって効果的な事業となることを期待する。

▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力

▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。

- ・令和2年度北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・令和2年度道央地区博物館等連絡協議会総会(道央地区博物館等連絡協議会)
- ・第29回(令和2年度)指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会)
- ・第30回全国科学館連携協議会幹事館及び総会(全国科学館連携協議会)
- ・令和2年度全国博物館館長会議及び第1回全国科学博物館協議会理事会(全国科学博物館協議会)
- ・令和2年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議及び第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・令和2年度ミュージアムマネジメント研修会(北海道博物館協会)
- ・第68回全国博物館大会(日本博物館協会)
- ・令和2年度全国科学館連携協議会国内研修(全国科学館連携協議会国内研修)
- ・第11回全国理工系学芸員展示研究大会(全国理工学芸員会議)
- ・JPAオンラインプラネタリウム研究会2020(日本プラネタリウム協議会)
- ・JPA北海道プラネタリウムネットワーク研修会オンライン(日本プラネタリウム協議会)

※上記会合および研修会は全てオンラインでの実施

- ・令和2年度道央地区博物館等連絡協議会第1回研修会(道央地区博物館等連絡協議会)

▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。

- ・北海道科学大学
- ・株NSD
- ・日本赤十字社
- ・高知みらい科学館
- ・株日立ハイテク
- ・北海道大学遺伝子病制御研究所
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター
- ・札幌医科大学
- ・理化学研究所

関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。

研修や講座等に参加し、職員の資質向上につながる取組を評価する。これらの研修や講座で得た情報や知識を活用し、今後も科学及び科学技術の普及啓発に向けた取組に期待する。

▼ 各種関係機関と連携し、以下の取組みを行なった。

● 社会教育施設・団体等と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・サイエンZOO(動物園科学の日)(札幌市円山動物園)
- ・かるちやるnetへの参加(事務局:北海道博物館)
- ・CISEネットワークへの参加(事務局:北海道大学総合博物館)

● 学校教育機関等と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・実験実習セットの貸し出し 14団体34セット
- ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」の実施 5回 参加者67名
- ・職場体験の受け入れ 2校 参加者3名
- ・博物館実習等の受入れ 2校 44名
- ・札幌市創意くふう作品展(札幌創意工夫教育研究会ほか)
- ・科学”大”実験(北海道科学大学)

● 地域と連携し、以下の取組みを行なった。

- ・新さっぽろ冬まつり(同実行委員会)など

● その他

- ・ふしぎ・おどろきサイエンスキッズ(札幌市子ども育成連合会)
- ・大人のジオ・フェスティバル in Sapporo2020(同実行委員会)
- ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト(一般財団法人日本宇宙フォーラム)(作品応募数 作文:114名 絵画:22名)

▼ 季節ごとの天体の様子や天文トピックスを掲載した天文情報リーフレット「星空散歩」を発行し、地下鉄駅構内や市内公共施設などに配架した。
6回42,500部

▼ エア科学館

臨時休館中、Twitterを用いて科学トピックスや科学館の展示物を紹介した。

49回(4/16~5/31)

期間中のTwitterフォロワー増加数230名

市内外の社会教育施設や大学、高等学校と連携し、交流を深め、ネットワークづくりを図ることができた。

地域に根差した博物館として、地域との連携は積極的に進めることができた。

月や惑星の動き、季節ごとの天体情報などを市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。

天文情報や科学実験動画などを配信し、臨時休館中であつても、科学に関する知識の普及啓発に努めることができた。

各種関係機関や他の社会教育施設、学校教育機関、地域と連携した取組を評価する。
このようなネットワークを活かした新たな事業展開に期待する。

臨時休館中も科学知識の普及啓発に努めたことを大変評価する。今後もSNS等を活用した情報発信に期待する。

	▽ その他科学等の設置目的を達成するために必要な業 ▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援した。	解説や質疑を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。																													
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table border="1" data-bbox="427 468 987 674"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>R1年度実績</th><th>R2年度計画</th><th>R2年度実績</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td><td>163,863</td><td>197,800</td><td>62,039</td></tr> <tr> <td>プラネタリウム</td><td>65,766</td><td>96,470</td><td>26,524</td></tr> <tr> <td>セット</td><td>64,842</td><td>32,010</td><td>27,866</td></tr> <tr> <td>総計</td><td>294,471</td><td>326,280</td><td>116,429</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="427 709 987 753"> <tbody> <tr> <td>事業参加者数</td><td>92,078</td><td>-</td><td>10,909</td></tr> </tbody> </table> ▽ 不承認0件、取消し0件、減免12,349件、還付0件 ▽ 利用促進の取組 ▼ 閑散期の利用促進のため、雪ミクとコラボしたイベントを企画し、新たな来館者を掘り起こした。 ▼ 各区のPTAからの要望に応じて、PTA主催事業用に前売り券の販売を行った。 ・厚別区PTA連合会 250枚 ・北区PTA連合会 800枚 ・南区PTA連合会 274枚 ▼ リピーターの拡大を図るため、展示室年間パスポートの販売を行った。臨時休館期間は、有効期限を延長するなどして対応を図った。 また、展示室だけではなくプラネタリウムのリピーター確保のため、特典付きのプラネタリウムスタンプ制度を新たに導入した。 Sciキッズ(小中学生対象の科学クラブ会員制度)に関しては新型コロナウイルスの影響で一度も事業を実施することができなかったが、メールマガジンを用いて科学に関する情報やトピックスの発信を定期的に行った。 ・展示室年間パスポート販売 481枚 ・プラネタリウムスタンプの新規導入 ・Sciキッズ会員 39名(継続39名)	区分	R1年度実績	R2年度計画	R2年度実績	展示室	163,863	197,800	62,039	プラネタリウム	65,766	96,470	26,524	セット	64,842	32,010	27,866	総計	294,471	326,280	116,429	事業参加者数	92,078	-	10,909	利用者の満足度を高めるため、イベントを工夫したり、前売り券を販売したりして、利用促進を図ることができた。 特に各区のPTA連合会からの依頼は年々増えてきており、今後も積極的にPRしていきたい。	<table border="1" data-bbox="1230 436 1412 468"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> </table> 新型コロナウイルスの影響により、前年度から大きく利用者が減少したが、利用者の満足度を高める取組やリピーターの拡大を図るための特典付きプラネタリウムスタンプ制度の導入等の工夫を行っていることを評価する。 今後も市民のニーズを捉えた、利用者増加の取組を期待する。	A	B	C	D
区分	R1年度実績	R2年度計画	R2年度実績																												
展示室	163,863	197,800	62,039																												
プラネタリウム	65,766	96,470	26,524																												
セット	64,842	32,010	27,866																												
総計	294,471	326,280	116,429																												
事業参加者数	92,078	-	10,909																												
A	B	C	D																												

(6)付随業務	▽ 広報業務	ホームページのコンテンツ、読みやすさともに工夫し、情報を発信した。	今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすい広報、利用者増につながるような工夫を期待する。
	▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「裏側レポート」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の向上に努めた。また、ウェブアクセシビリティの向上のため、JIS X 8341-3:2016「附属書 JB（参考）試験方法」に基づき検査を行い、一部を除いてレベルA準拠であることを確認した。レベルAを満たしていない項目については、大掛かりな修正作業が必要であったため、ホームページリニューアルの機会に対応を図る予定である。		
	▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。		
	▼ マスコミに対し、積極的に情報提供を行った。	プレスリリース等を積極的に行い、当館の事業について広く市民に知ってもらうことができた。	
	▽ 引継ぎ業務		
	▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。		
2 自主事業その他			
	▽ 自主事業		A B C D
	▼ 自動販売機事業		
	売上高 1,902,439円		
	▼ 売店事業		
	売上高 2,575,880円		
	▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等		
	▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に取り組んでいる。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。		引き続き、市内企業、社会福祉団体の活用を期待する。
	▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。		
	▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。例年実施してきたプラネタリウム用の補聴器の貸し出しに関しては新型コロナウイルス感染防止のため、一年間を通して休止した。	館内利用や事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができている。	ユニバーサルデザインの対応を含め、多様な市民が利用しやすい場となるよう工夫されており、評価する。
	・車椅子の貸し出し		
	・字幕付きプラネタリウムの実施		

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	従来の対面式アンケートから、スマートフォンなどを利用したWebアンケートに変更して実施した。 集計件数95件
結果概要	科学館全体の満足度 とてもよかった(56.8%) / よかった(34.7%) / ふつう(3.28%) / よくなかった(4.2%) / とてもよくなかった(1.1%) 特別展等の内容の満足度 とてもよかった(60.4%) / よかった(31.3%) / ふつう(7.9%) / よくなかった(0.0%) / とてもよくなかった(0.4%) 職員の対応 とてもよかった(66.3%) / よかった(23.2%) / ふつう(7.4%) / よくなかった(2.1%) / とてもよくなかった(1.1%)
利用者からの意見・要望とその対応	【意見・要望】 ・コロナで休止している展示物があつて残念だという声が多かった。 ・雪ミクイベントなど人気イベントを継続してほしい。 【対応】 ・段階的に展示物の再開を検討した。 ・雪ミクイベントで行った展示物をめぐるラリーが好評なため、次年度に別のキャラクターで同様の企画を実施した。

利用者からの声を館の運営や事業に活用することができた。

A B C D

集計件数は少なかったが、利用者の満足度が高い運営を行っていることを評価する。今後も新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで、展示物の運やイベントの企画をお願いしたい。

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R2年度計画	R2年度決算	差(決算-計画)
収入	456,074	417,830	▲ 38,244
指定管理業務収入	443,773	413,351	▲ 30,422
指定管理費	367,458	367,458	0
利用料金	74,000	27,006	▲ 46,994
その他	2,315	18,887	16,572
自主事業収入	12,301	4,479	▲ 7,822
支出	459,378	393,352	▲ 66,026
指定管理業務支出	449,801	387,645	▲ 62,156
自主事業支出	9,577	5,707	▲ 3,870
収入-支出	▲ 3,304	24,478	27,782
利益還元	0	0	0
法人税等	35	35	0
純利益	▲ 3,339	24,443	27,782

A B C D

新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な利用料金収入減があつた中でも支出を抑え、計画値を上回る収支を維持したことを評価する。令和3年度も新型コロナウイルスの影響は続くことが予想されるが、収支状況が悪化しないよう引き続き努めていきたい。

▽ 説明		
収入面では、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館があったことから、観覧料が減収となり、利用料金が落ち込んだ。また、売店・自動販売機等の自主事業に関する収入も観覧料と同様に落ち込んだ。支出面は、人件費や物品の購入を抑え、収支の均衡を図るよう努めた。		

<確認項目> ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 ▼ 当団体の財務状況等は良好である。		適 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。		適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
「学校教育との連携」「生涯学習の推進」「地域・他施設との連携」「効率的かつ安心・安全な管理運営」の基本方針を意識し、常設展示・実演及びプラネタリウム等の運営を行い、市民に対して科学への興味関心を喚起した。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ほぼ全ての事業に関して既存の手法を踏襲することが難しい状況に追い込まれたが、逆にどのような手法を講じれば事業を継続できるのか、何か新たにできることはないか、といったことを模索した一年間であった。 結果として、オンライン上での学習機会提供や、非接触型展示物等を活用した体験型展示・実演プログラムの開発など、「新しい生活様式」に基づいた館運営や生涯学習支援策に関するノウハウを取得し、今後の活動の幅を大いに広げることに繋がった。	当面新型コロナウイルス感染症の影響は免れないことから、感染症防止のための各種対策に取り組むことは最重点課題とし、広く市民に安心して来館してもらえるための環境整備に注力する。 事業面では、昨年度に引き続き「新しい生活様式」に基づいた新しい学習の場やスタイルのあり方について検討を重ね、感染症予防対策と学芸活動の両立を図っていく。 また、来年度以降、展示室のリニューアルを控えていることから、札幌市教育委員会やリニューアルを手がける事業者等と連携・協力し、当財団が蓄積してきた様々なノウハウを生かしながら、新しい科学館作りに寄与していきたい。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで、幅広い市民に科学を楽しみ学べる機会を提供していることを評価する。 令和2年度は新たなリピーターを増やすためのプラネタリウムスタンプ制度やオンラインを活用した事業を多数実施しており、市民の科学及び科学技術への関心を喚起する取組を工夫したことを高く評価する。 新型コロナウイルスの影響による制限や利用者の減少などは今後も続くことが予想されるが、引き続き科学館が市民に親しまれる施設となることを期待する。	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、科学館のあらゆる事業に制限がかかっている状況ではあるが、各種ガイドライン等に基づいた感染対策を実施したうえでの事業再開やオンラインを活用した新たな事業展開を引き続き検討していくこと。 また、契約に関しては、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」に基づき、暴力団員等が契約者に該当した際などに契約を解除できる旨の要件を明記するよう、契約手続きの見直しを進めること。また、職員に対し契約規則及び契約事務取扱要領を改めて周知し、当該規則等に基づいた適正な手続きで事務が進められているか今一度確認すること。